

世界最北のカラスバト?! —その基礎生態の解明に向けて—

小峰浩隆（山形大学農学部）

背景

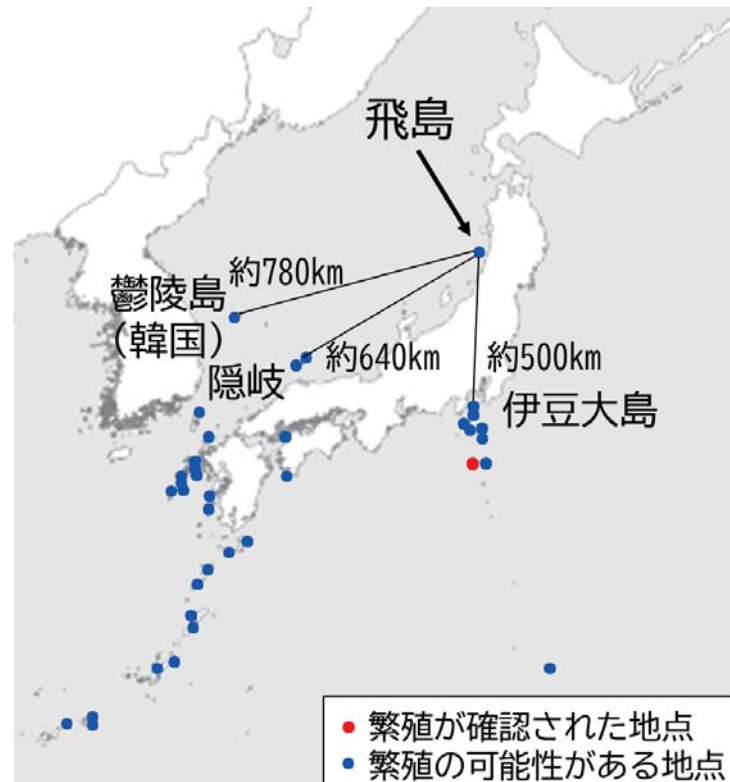
国の天然記念物 カラスバト

カラスバト *Columba janthina* は国の天然記念物に指定されている希少種で、世界で日本周辺の暖温帯から亜熱帯にかけての島嶼にのみ生息しています。しかし山形県の飛島では、東北以北で唯一、繁殖の可能性が指摘されています。



飛島にて自動撮影カメラで撮影されたカラスバト

現在知られている本種の繁殖地の北限は、国内では隠岐諸島、海外を含めると韓国の鬱陵島です。飛島はそれらより更に北方に位置しているため、当地の個体群は**世界最北のカラスバト繁殖個体群である可能性**があります。



全国鳥類繁殖分布調査報告2016-2021年を基に作成

また飛島は、繁殖の可能性がある他の地域の中で最も近い伊豆大島からも、約500km離れています。そのため、**隔離個体群としても貴重な存在**です。

これまで、交尾行動の観察報告があるものの、その生態の多くは未解明です。国の天然記念物及び、準絶滅危惧種に指定されている本種の保全のためには、生態に関する基礎情報を定量的に評価する必要があります。

本研究では、山形県の飛島において
カラスバトの基礎生態の解明を目指します。

目的

カラスバトの基礎生態の解明に向けて、

- ①森林タイプごとの相対密度を評価します。
- ②相対密度の季節変化を評価します。

手法

- ①森林タイプごとの相対密度を評価

本調査地である飛島には、主にタブノキ林とマツ林が成立しています。これらの異なる森林タイプにて、10地点程の定点を設定し、繁殖期と考えられる夏期に、個体数やさえずり頻度を評価します。



- ②相対密度の季節変化を評価

林内や水場に、音声レコーダー及びカメラトラップを各10-20台程設置し、年間を通して記録する事で、さえずり頻度及び撮影頻度の季節変化を評価します。



保全への貢献

森林タイプごとの相対密度を把握する事で、カラスバトの生息に適した森林タイプの維持や更新に関する提言に活かす事ができます。また、相対密度の季節変化を把握する事で、繁殖の可能性やその時期を絞り込み、観光実施時期の提言に活かす事ができます。

支援金の使途

調査時の旅費やレコーダー等の購入費に充てさせていただきます。